

## 1. 研究目的と背景

本研究は、中学生女子をターゲットとしている雑誌『Nicola』内の読者投稿欄を基に女子小・中高生が実際に直面する性に関する課題、疑問を分析し、日本の性教育のメインとなっている保健体育教科書が生徒の疑問の解決に機能しているのか明らかにすることを目的とした。

日本の教育機関における性教育については、性教育先進国と比べその内容が乏しいと指摘されながらも、大きな進展が見られないのが現状だ。日本の小・中高生に必要な性教育の内容とはどのようなものなのか。匿名であること、知り合いには相談できない内容も文面で気軽に投稿できる雑誌の相談ページの分析によって、リアルな課題が明らかにできると考えた。

## 2. 研究方法

中学女子をターゲットとしている雑誌『Nicola』内の「ニコラ保健室」と呼ばれる連載ページに掲載されている読者からの投稿を対象とし、質問内容の分析を行った。性教育に関連する内容についての質問のみピックアップし、10項目に分類し検討した。データは連載が始まった1999年から2020年までの258号分である。

また、現行の「中学保健体育教科書」内の性教育に関連する章について、ニコラ保健室に寄せられた悩み・疑問の回答となる記述の有無を分析した。

## 3. 調査結果

【ニコラ保健室内容分類】有効質問数は、936件、投稿者の学年は小学校5年生から高校2年生までであった。中学生からの投稿が81%を占めていた。質問内容による分類では、「性教育関連」の質問が45.6%を占めており、体に関する話題では、性に関する関心が高いことがうかがえる。性教育関連の内容をさらに細かく分類した結果、月経に関する悩みが全ての学年で最も多い。また、年代別の質問内容分布の変化はなく、連載開始からニコラ保健室に寄せられる質問に大きな変化はないことが分かる。

【中学保健体育教科書との比較】教科書内の記述が、「ニコラ保健室」に寄せられた疑問に対して回答として機能しているのか検討するため、質問内容をさらに細かく分類し比較を行った。有効質問数5件以上のサブカテゴリのうち、回答となる記述が教科書内で確認できたのは11項目で全体の35%であった。今回収集した性の悩み・疑問に対する回答となる記述が教科書では少ないことが分かる。

全体として、「性交」や「避妊」「性犯罪」といった、生徒の安全に関わる内容に関しても、教科書内の記述が

不十分であることが分かった。ニコラ保健室には、実際に性行為を行った上での投稿が11件、恋人からの性行為の誘いに関する悩みが4件寄せられており、中学生であっても性行為が実生活の悩みとして挙がっていることが分かる。しかし教科書内では「性交」に関する記述はなく、避妊具についても「コンドームを正しく使用」との文言のみで、「正しい」方法とはどのようなものかわかる具体的な記述はない。

一方、性感染症に関する教科書内の記述は非常に充実している。質問内容にも具体的な性感染症の名称が含まれているのが特徴的であった。教科書の記述との関連は断定できないが、自身の症状と照らし合わせ見当をつけることができる情報量が提供されている。

## 4. 結論と考察

「ニコラ保健室」に寄せられた内容を女子中学生の関心であるとするならば、教科書の記述は妊娠・月経の仕組みなどの生物学的仕組みにとどまっており、実践的な内容になるとほとんど機能していないことが分かった。生徒の行動変容に繋がらないばかりか、性に関して「触れてはいけない恥ずかしいものである」との考えが進む可能性がある。

現状の日本の教育機関における性教育は、教科書に記載されている内容以外でははっきりと決まったものがなく、各学校にその充実度は委ねられている。しかし、性に関する知識は権利として認められていることから分かるように、生きていく上で必須の内容であり、生徒の安全に関わる内容である。教科書は各学校の方針に関係なく、全国の生徒に平等に与えられる。教科書の内容の充実こそ、全ての生徒に平等に性に関する知識を与えるために必要なことである。

## 注・文献

- [1]橋本紀子・篠原久枝・田代美江子・鈴木幸子・広瀬裕子・池谷壽夫・良香織・小宮明彦・渡部真奈美・茂木輝順・森岡真梨(2011)「日本の中学校における性教育の現状と課題」『教育学研究室紀要：「教育とジェンダー」研究』,9,pp.3-20
- [2]橋本紀子・池谷壽夫・田代美江子(2018)『教科書に見る世界の性教育』かもがわ出版
- [3]平林宏美(1995)「性教育の現状と課題：性教育の実践と現状」『長野県短期大学紀要』,50,pp.189-201